



洋書輸入協会会報

Vol. 29 No. 6 (通巻337号) 1995年6月

定時総会報告

1995年度定時総会は5月26日(金)午後2時30分から箱根湯本・ホテルおかだ・コンベンションホール〔富士の間〕にて開催された。

〔出席状況〕	出席	35社
	委任状	48社
	計	83社

正会員99社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会規約第5章第30条に基づき総会は成立した。なお、賛助会員の出席は3社であった。

高橋総務副委員長(丸善)の司会により開会、先ず神田事務局長より総会成立が報告された後、1994年度中の入・退会会員が次のとおり紹介された。

- 〔入会〕 なし
 〔退会〕 シー・シー・エイチ ジャパン
 ㈱エルピス
 マグロウヒル出版㈱
 日ソ図書㈱
 【いずれも正会員】

開会にあたって、海老原理事長より次のような挨拶があった。

『昨年来のわが国経済は「狐の嫁入り」とでも言いましょうか、見方によっては景気が少しは良くなった、また角度を変えますと相変わらずと、はっきりしない経済

環境がいまだに続いております。加えて年初来、阪神大震災あるいは東京でのサリン事件など大きな災害や騒動が続いていまして、これでは落ち着いて本も読んではいけないだろうと、少々本の売行きが鈍いことに対しての言い訳をしております。

一方、政府筋の動きはどうかと言いますと漸く追加予算が参議院を通過しましたが、このような時にあっても与野党の駆け引きで予算の成立が阻まれるという、いったいこの国の出来事であろうかと思わせる、どうしようもない状況が相変わらず続いております。そういうことが続いても、何とか日本は倒れないでやって行けるということでしょうか。

オウム事件に関しましては、一部に「あれは戦後教育の大欠陥がここへ来て露呈したのだ」、「頭の良い、或いは英才教育を受けて一流大学を出た人達がそのような事を真面目になって……」と、ことを教育制度の問題にしている見方もあるようです。そういたしますと、いずれ新しい教育の在り方が今度こそ真剣に討議され、そういうものを通して、あるいはその結果としてわれわれ業界にも明るい時代が帰ってくる、又新しい営業のチャンスが生まれるのではないかと、そういう期待もしております。

既にご承知のとおり、去る3月9日に協会事務所をはじめ会員各社に対して公正取引委員会の立入り調査が行われましたが、とんでもないお門違いで、弱いものいじめの感じがしないでもありません。

目次

定時総会報告	1	計 報	4	文化厚生委員会だより	5
1995年総会懇親旅行	3	うちの会社	5	東京の坂と橋と文明開化500	7
総代理店ご案内	4	海外ニュース	5	広 告	8
おしらせ	4				

いずれにしても、洋書輸入協会の存在価値を内外にはっきりさせるべく、これからも元気を出してやって行くではありませんか。

本日は、新しい規約に基づいて昨年発足した新体制下、初めての総会です。決算、予算に加えて会費改訂等いくつかのご提案を用意しておりますので、慎重にご審議のうえ協会活動の活性化について何分のお力添えを賜りますようお願いしてご挨拶に代えます。』

続いて中田理事長代理より、94年度の理事会活動について概略次のような報告があった。

・新理事会体制

7名構成の理事会及び常設6委員会による新体制でスタートした。

・1995年東京国際ブックフェア

前年に続いて当協会は主催者団体に参画した。また、会場内で「洋書バーゲンセール」を実施した。

・消費税問題

「洋書・外国雑誌の国内販売に対する消費税免除」を求めて公正取引委員会と国税庁へ要望書を、与党税制改革プロジェクトチーム幹事へ同じ内容の陳情書を提出した。

・会費改訂

昨年度より理事会員会費を引き上げたが、協会の財政事情から見ても一般正会員及び賛助会員の会費も若干値上げせざるを得なく、本総会にて提案するのでご審議をお願いする。

・阪神大震災

関西地区会員社、その他の会員支店等に人命の損失や大きな被害はなかったようである。2月号会報に被害者・被災地に対するお見舞い記事を掲載した。

・公正取引委員会立入り調査

3月9日に協会事務所をはじめ会員14社が公正取引委員会の一斉立入り調査を受けた。大口顧客への納入時の割引率および円価換算レートを協定した、という容疑であった。事情聴取が始まったが、協会としてそのような協定は一切していないし理事会でもそういう話題を論じたこともないので、この容疑については潔白である。現在のところでは会社の組織や協会の実態についての事情聴取の段階で、あまり厳しい追求はされていないようである。

・円高差益還元

通産省・商務流通審議官より協会理事長あてに『傘下各企業に対し円高メリットの還元に努めるよう周知徹底を図る等、一層の努力を強く要請する』趣旨の4月21日付け文書が送られてきた。我が業界に於いては既に「周知徹底」していると確信する。

次いで委員会報告に移り、総務（西沢／医学書院）、会報（杉山／日本出版貿易）、広報・渉外（尾内／丸善）、事業（大倉／洋販）、ダイレクトリー（小林／UPS）、文化厚生（吉本／紀伊國屋）の各委員長・委員長代行よりそれぞれ活動報告および今後の方針について説明があった。

理事会報告及び委員会報告を受けて質疑応答を行い、協会の在り方や問題点、理事会・委員会活動についての提案など、活発な議論がなされた。

この後海老原理事長を議長に選任して議事に入り、理事会提案の3議案が上程された。

1. 1994年度決算案

西沢総務委員長の内容説明の後、高橋（南江堂）・篠崎（三省堂）両監事による監査報告があり、拍手を持って可決、承認された。

2. 会費改訂提案

西沢総務委員長から提案理由の説明があり、質疑応答の後挙手による採決を行い賛成多数で可決、承認された。

3. 1995年度予算案

西沢総務委員長から内容説明があり、質疑応答の後拍手を持って可決、承認された。

以上で議事がすべて終了し、吉本理事（紀伊國屋）の次のような挨拶を以て総会を閉幕した。

我業界は円高による差益還元で、内外価格差の是正、市場開放など、内外の難問に直面しています。40品目にちかい輸入品の中で、マイナー市場の洋書が何故俎上にのぼるのか？

洋書には外貨表示があり、価格構造が直截簡明、輸入品価格のシンボリック扱いを受けています。これは今後も続くでしょう。

これに対応するには業界の構造を変えなければなりません。外部から「硬直業界だから最も侵入しやすい。」と云われる諸原因を一つ一つ潰して、国際的に通用する業界にすることでしょう。

今後のヴィジョンを構築する為に、正々堂々、節度あ

る、活発な討議が不可欠です。

何でもものの云える開かれた業界であることが発展の原動力です。

本日は長時間ご審議をいただき、誠に有難うございました。これをもって閉会の辞とさせていただきます。

約一時間半の休息後、会場を別室に移して海老原理事長の乾杯の音頭により懇親会を開き、歓談のひとつきを過ごした。懇親旅行会を兼ねた総会は本年で2回目になるが、両方とも参加者は前回をやや下回った。

以上

1995 年総会懇親旅行一箱根湯本

今回の懇親旅行は、1993年に続いて総会との共催となった。その時も、会報委からの依頼で懇親旅行記を書いたのだが、およそ中味の無い文章で、記録性などカケラもない代物だった。マジメに読んだら、二度と同じような依頼はないと踏んでいたが、「継続は力なり」を信奉されているのか、全く前回の文を読まれていないのか、又、依頼が来た。とにかく、酔筆（粋筆ではない！）だから、重要性や記録性に乏しいことを先にお断りしておく。

懇親会と総会の共催となると、まあ普通は総会は固く、そして、まあまあ後で肩でもおもみしようということだが、今回は違った。総会報告で報告されるかどうか知らないが、ユサコの山川社長が、理事の方々に対してかなり強烈な啖呵を切ったのである。それに応じて、いろいろな方が、いろいろ発言して、結構盛り上がりしてしまった。これはこれで大変良いことなのだが、懇親会担当者の腹づもりの《総会＝面白くない》《懇親会＝面白い》という単純な方程式が崩れたのである。かくして、懇親会の成否は、天才宴会戦術家の鶴社長の双肩にかかって来た。文化厚生委のメンバーも各々の分担を再確認し懇親会に臨んだ。

懇親会の参加者は48名で、今回は海老原理事長の参加も得た。理事長の両隣に、文化厚生委の美女2名を置き、その他の席割りも創意工夫、当意即妙に決められた。

宴会場は、7Fの“金剛”の間。280畳敷の大広間で、舞台もちゃんと着いている。この“おかだ”というホテルの大浴場に行くには、7Fで降りて、エスカレーターで8Fに行かねばならない。宴会の途中で急に温泉に入りたくなったら、非常に便利な所にある宴会場である。

海老原理事長の短かい挨拶と乾杯の音頭で一挙に宴会に突入した。この辺の間の取り方というかタイミングの良さは、鶴さんの天性のものであり、誰もマネ出来ない。

しばらく、隣近所とワイワイやっているといわゆるキレイどころが入って来た。ちゃんと着物を着ているし、ちゃんと踊りもするそう。仲居さんが私のところに来て「芸妓さんが一人オマケについたそうです」と言う。10人頼んでおいたのだが1人オマケが付いて11人来たそう。グリコみたいなものだなと思っているとそのオマケの芸妓さんが私達の前の担当（と言うのかな）になって、ビールやお酒をついだり、エビをむいてくれたりした。

さて、この後のことについては、いつものことながらほとんど記憶が無い。途切れ途切れの記憶をたどると、文化厚生委メンバーのロングマンの川原さんが、カラオケ担当という大役を請負って、歌本を抱えて大汗をかいながら座席を回っていたこととか、私も何か歌って参加賞のテレカを貰って、「こんな物貰った」と言っておマケ芸妓さんに見せると「アラどうもありがとう」と言って、さっさと帯の中にしまってしまったことなどのどうでも良いような事ばかりなので省略します。本当は、多分、きちんとした仕事の話もしたと思うので、あの場で何か約束したりした事があったら今からでも結構ですので、是非ご連絡下さい。

とにかく、愉快地（自分だけ？）過ごす内に芸妓さんもうつの間にかいなくなり吉本文化厚生委員長の中へめで懇親の宴席はお開きとなった。二次会は、我々の幹事室の205号室で行われた。が、私は既に半分寝ていて、気がついたら205号室にオマケ（今回はオマケが多い）についている小部屋で寝ていた。二次会にはざっと30人位が来たそうで、例のオマケの芸妓さんも混じっていて、やっと只働きから開放されたそう。

翌朝は、ゴルフ組、テニス組、その他と三々五々出発して、懇親会は終わりました。良いお天気でした。

（紀伊國屋 尼子記）

総代理店ご案内

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

Tel. (03) 3291-4541

Fax. (03) 3293-3484

サー・ジェイムス・スチュアート

「経済学原論」合注版

Sir James Steuart's Principles of Political Oeconomy: A Variorm Edition.

Edited by Andrew S. Skinner. 4 volumes 2000pp. September 1996

ISBNI-85196-246-8 (Pickering & Chatto)

予定価格 67,850円 予約特価 (1996年8月20日まで) 57,500円

代表業務停止のお知らせ

World Scientific Publishing Co.(Singapore)

お知らせ

次の通り移転通知がありましたのでお知らせします。

エム・アール・アイ情報ネットワーク(株)

新住所 ㊤100 東京都千代田区大手町2-3-6

三菱総合研究所ビル

電話 03-3277-0792 業務企画室

03-3277-0793 DIALINE サービス部

03-3277-0794 NTIS サービス部

Fax 03-3277-3486

訃報

エンデルレ書店 代表取締役社長 エンデルレ・ルーペルト氏は、5月24日心不全のため逝去された。享年82歳。葬儀は5月26日茅ヶ崎カトリック教会で行なわれたが、社葬による告別式・追悼ミサが6月15日聖イグナチオ教会において厳粛にとり行われた。

エンデルレ・ルーペルト氏は1935年来日。ドイツのヘルデル社代理を兼ねたエンデルレ書店を創立。爾後60年にわたって、書店経営とキリスト教関係の出版に尽力し1986年にはローマ教皇庁より聖シルベストロ騎士団長勲章を受けた。

洋書輸入協会会報・広告掲載料等のご案内

1995年6月

(1) 広告掲載料	A) 全頁(表紙④)(max. タテ 20 cm×15 cm)	15,000円
	A') 全頁(表紙④)二色刷(")	18,000円
	B) 2分の1頁(記事)(max. タテ 10 cm×15 cm)	8,000円
	B') 2分の1頁(4頁・5頁)二色刷(")	10,000円
	C) 3分の1頁(記事)(max. タテ 7 cm×15 cm)	5,000円
	C') 3分の1頁(4頁・5頁)二色刷(")	6,000円
	D) 4分の1頁(記事)(max. タテ 5 cm×15 cm)	3,000円
	D') 4分の1頁(4頁・5頁)二色刷(")	4,000円
(完全版下の原稿を送付のこと)		
(2) 総代理店案内	1行(25字)あたり	300円
(3) その他の有料扱い	上記以外のもの、その内容が宣伝・広告の要素が強い記事については、寄稿者と相談のうえ有料扱いとすることがあります。料金はおおむね上記に準じます。	

ご不明の点は事務所にお問い合わせください。

株式会社 国際書房

人も知る（当たり前的事だが知らない人は誰も知らない）法律洋書の専門店。強力 USSR 帝国は70年で滅びましたが、当社は75年、当今70年や80年は珍らしくありませんが、創立以来、洋書だけと云うのは少し変わっているでしょう。

もっとも専門は浮世の流れと共に変化しましたが、戦後は法律一本、これだけ続きますと、いい加減専門バカになります。職人氣質の“ようなもの”です。その職人バカに近い日常生活をおくっているのですから、何が世の役にたっているのかよくわかりませんが、去年、Karl Engish 博士の全蔵書をドイツの大学と張り合って日本に輸入したり、又62年輸入の Mohler 博士の蔵書に、今回当時のパンフレット、出版物等多数を組合わせ、“その時代の知識人”の生き方を幾分明らかにした事等は、私達の能力が幾らかお役に立っ

ているのかも知れません。若干、世の流れに逆らっているのか手持ち在庫の半分以上は法律古書になってしまいました。専門的には楽しいものですが、これでもいいのでしょうか？

私達は誰の為に働いていると云うわけでもありませんので、日常生活はお客様にも私達も気分よくおくりたいし、且つ“生業”^{ナツフイ}がたち、将来の資本もと思うとただ楽しんでいだけでは少し荷が重いような気がしております。

書籍は、一冊ずつ、又人によっても価値が違いますし入手する原価も手数も違います。年間1,000冊も出る本と10冊の需要しかない本を、魚市場でもしない様な、鯛も鰯も一緒くたに目方でいくらと云うやり方は、職人にとって余り幸せとは云えない気がします。

（服部貞夫）

海外ニュース

イギリス小・中学校の深刻な書籍購入費不足

イギリスの小・中学校の教科書に対する支出額は、ヨーロッパで最低レベルである。ヨーロッパ9カ国（イギリス・フランス・ドイツ・オランダ・デンマーク・スウェーデン・イタリア・スペイン・ギリシア）を対象にした調査によると、イギリスよりも支出額が少なかったのはギリシアのみであった。イギリスの3倍にも及ぶ額を教科書に充てている国もある。

イギリスの教育出版委員会（EPC）は学校の書籍購入費に関する調査を実施しているが、EPC代表を勤めるJ. デービス氏はこれらの調査の最新結果を評し、「学校が9月から改訂版ナショナルカリキュラムに対応した教科書を準備できる見込みはほとんどないだろう。」と言っている。

デービス氏によると、生徒一人あたりに換算した年間書籍購入費は、小学校で11.10ポンド、中学校で17.30ポンドと非常に不十分なものである。特に、私立と比べて国立の学校の予算がかなり少ないことも指摘されている。今回改訂された新カリキュラムは用語法や内容の面でいくらかの変更をもたらすとされているが、これらの変化を十分に反映した新しい教科書を買う予算は学校にはないのが現状だという。

こうした危機的状況については、多くの作家たちも警鐘を発している。「公共図書館の多くが同じような書籍購入費の不足に直面しているとなると、我々はどうやって新たな読者を育てていくことができるだろうか？」'95年4月の教育省との会議において、EPCは政府の教材費に関する助成方針の見直しを求めている。

—BOOKSELLER 誌 '95年4月21日号より抜粋—

第76回 72会ゴルフコンペ

かなみスプリングスカントリークラブ 1995.5.27(土) 参加9名

昨日の懇親会のお酒も余韻も抜けないまま、4台の車に分乗して箱根ターンバイクを一路西南へ。天気予報は見事に外れ素晴らしい五月晴れ、言葉通り雲にぽっかり浮かんだ富士山と眼下に芦ノ湖、周りの山々の新緑が朝日に輝きこれ以上は望めない最高のドライブ日和、ゴルフ日和となりました。

紀伊國屋・吉本さんのホームコース、かなみスプリングスはパームツリーにピンク色のクラブハウスと日本離れした雰囲気、昨日の温泉旅館から今日はアメリカのリゾート地にでも飛んで来たような気分させられました。スリーサム3組という小じんまりとした今回は、いつもにも増して和やかな笑顔の絶えない楽しい会となりました。グリーンの傾斜と速さのみならず、左右どちらかにOBラインが迫る狭いフェアウェイ、距離と風の計算が難しいショートホールと苦労の連続となるはずのコースを、前半涼しいお顔で淡々とまわられたのが丸善の中田さん。何と12パットでパーを7つ重ねて40という驚異のスコアに全員脱帽でした。これで優勝間違いなし

と思われたのですが後半このコースの落とし穴に捕まり残念ながら2位に。ここで地主の底力を発揮なさったのが吉本さん。out, inとも前半の2、3ホールのオーバー分を、後半絶妙のパットで連続パーセーブ、あがってみれば45、46でベスグロ優勝となりました。前回優勝の尾内さんはニアピンのみで今回は遠慮がち。尼子さんの会心のショットは狭いフェアウェイを見事に捉えた素晴らしいドラコンでした。ラウンドテーブルを囲んでのパーティーもすっかり盛り上がり、山陰に沈んで行く夕日を眺めながらの帰途となりました。結果は下記の通りです。

		G	HC	NET
優勝	吉本明城(紀伊國屋)	91	14	77
2位	中田安昭(丸 善)	92	13	79
3位	後藤明美(ベーカー)	94	8	86
B G	吉本明城(紀伊國屋)			
D C	尼子英二(紀伊國屋)	中田安昭(丸 善)		
N P	尾内昌弘(丸 善)	中田安昭(丸 善)		
				(A.G.)

フォーティラブ(JBIA テニス同好会) 1995年・春合宿報告

硬式テニス同好の紳士、淑女方が集うフォーティラブの今年度・春合宿は、4月14日(金)晩～15日(土)終日のスケジュールで、再び津久井湖畔プチビラ村で開催された。

前夜に、職場より直行で参集した幹事・常連組は、雨模様の天候を夜半にクリアする意気込みで、前祝盃交歓。幸先よく、翌朝は晴天。プチビラ名物のメスレー(すももと桜の並木は、純白とピンクの芳花が同時満開の壮観。広大な庭園に、かたくり、じゅうにひとえ、ふでりんどろ等珍らしい草花も咲きそろい、うぐいすの啼き声も響く。

日帰りご参加の方々も、午前中に全員が参集され、コート3面を終日借り切った練習や試合では、女性チームの好打が光る。休憩は、シャワー浴後に、プチビラ特産のメスレーワインに、山菜料理や珍味で昼食及夕食会。

今回は医学書院 MYW(6)、丸善(5)、東光堂

(3)、ロングマン、洋販、三省堂は各(2)。フランス図書、マクミラン、㊦が各(1)の計24名参加(女性4名)。初参加の若手社員男女のご健闘にも拍手!!

(メスレーワイン・サーバーW生)



日本橋と出版文化〔1〕

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆日本橋今昔

「江戸でもっとも絵のような景色を求めるならばそれは日本橋が良い。……北を望めば富士山（フジヤマ）の白い尖頭型（ピラミッド）が水平線に浮かんでいる。右手には市街の上の高台に大君（タイクーン）の居城の庭園や四角の塔がある」

これは、「日本・スイス修好条約」を締結するために1864年（元治元）年に来日したスイス遣日使節団長アンベール（Aimé Humbert 1819-1900）が見た日本橋の情景であった（Le Japon Illustré）。今では想像もつかないような日本橋の景観ではある。

日本橋一帯は江戸時代から明治初期を通じて多くの出版社が店舗や社屋を構え、日本の出版文化をはぐくんだ地域であった。今回は日本橋が担った近代出版文化の歴史を探って見ることにしたいが、その前にまずは日本橋の「橋」の歴史に簡単に触れておくことにする。

日本橋は1603（慶長8）年に架設された。慶長8年といえば、徳川家康が征夷大将軍となって江戸幕府を開府し、大規模な江戸の町割を行った年であった。日本橋はこの江戸の町づくりに伴って架橋されたもので、このときの様子を『武江年表』で見ると、「この時、日本橋をはじめて掛けらる。『見聞集』云ふ、大川なれば、川中へ両方より石垣を築出し掛け給ふ。敷板の上三十七間四尺五寸、広さ四間式尺五寸なり。又云ふ、この橋ご普請の時分、日本国の人あつまり掛けたる橋なり。この橋の名を人間はかつて以て名付けず、天よりや降りけん地よりや出けん、諸人一同に日本橋とよびぬる事、希代不思議と沙汰せりと云々」と架設の様子と橋名由来についての伝聞を記している。そして、翌慶長9年には日本橋を一里塚の元と定めて、五畿七道に一里塚を敷設した。こうして日本橋は江戸はもちろんのこと、日本の中心点としての役割を与えられることになった。そのためもあって日本橋界限は江戸の中心的町となり、日本橋本町辺や京橋へかけての通町の町並みには越後屋（三越）、白木屋（日本橋東急）、大丸など豪商が軒を連ねて江戸で最も繁盛した商業地区となって賑わった。

江戸時代には、この日本橋は明歴の大火で焼失して以

降、11回におよぶ架け替えが行われた。明治に入ってから明治3年に新しく木橋が架けられたが、翌々年の明治5年に銀座から下町一帯を焼き尽くした大火によって焼け落ちたため、その翌年明治6年再び新橋が架設された。これも木橋であったが、始めて車道と人道を区別し、反りのない西洋風の橋となった。

今見られる日本橋は石造り2連のアーチ橋（眼鏡橋）で、28カ月を費やして明治44年に竣工したものである。橋長27間（49.1 m）、巾15間（27.3 m）の花崗岩造りで、親柱には東京都のマークを支えた獅子、中央の電飾灯には麒麟の塑像を置き、橋灯には一里塚と街道の並木を意味する榎と松をあしらっている。明治の第1級の建築家妻木頼黄により、全体的にバロック風にデザインされたその豪華・華麗な橋姿は帝都の代表的な橋としての風格と威厳を具えて誕生した。橋名標は第15代将軍であった徳川慶喜の揮毫になるもので、かつて江戸のあるじであった彼が筆を染めたときには、家康によって開橋された歴史に思いを馳せて、きっと感慨を覚えたことと思うし、また江戸っ子にとっても公方様の書ということで喜びもひとしおだったのではなかったろうか。開橋式は明治44年4月3日の神武天皇祭の日に行われ、記念絵はがきを見ると、周辺は群衆で埋まりちょうちんや国旗が張りめぐらされて、その盛大な様子が描かれている。

この本格的な近代的石橋は、関東大震災でも橋脚にわずかなひび割れと火災による石片の剝離があっただけで修復され、また戦時中に供出したブロンズのランプや装飾品も戻って、今日「橋」というものの美しさをつくづく感じさせる優美・荘重な姿を訪れる人々に見せてくれる。いや、見せてくれるはずであった。

筆者にとって日本橋はもう「臉の日本橋」である。現在では日本橋川に重なる高速道路に覆うわれて橋は暗く、麒麟を飾った電飾灯の肝心な電飾などは高速道路に隠れて遠望はできない。日本橋は今、主役の座を降りてしまったかのように見える。かつてこの橋は審議を重ね、妻木博士の主張する地域環境デザインの思想を重視して設計されたというが、それを思うとき今の日本橋の姿が哀れでならない。（参考：伊藤孝『東京の橋』）

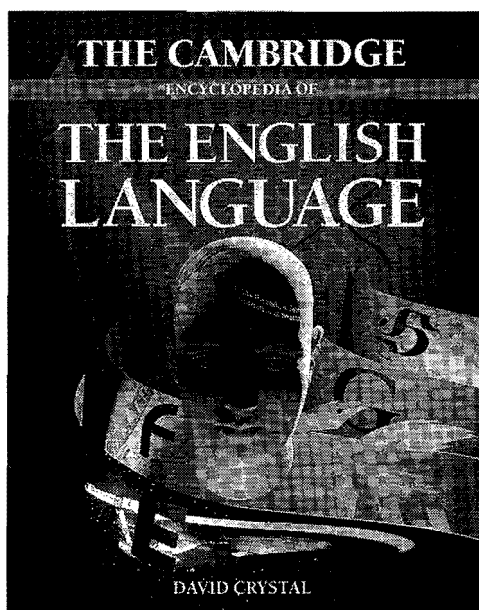
THE CAMBRIDGE ENCYCLOPEDIA OF THE ENGLISH LANGUAGE

好評発売中!!

ケンブリッジ英語百科事典

David Crystal

1995年4月刊行 500頁 276×219mm ISBN 0-521-40179-8 6,890円(税別)
415カラー写真・745カラー囲み記事・104白黒写真・172図表&地図



5つの特色

- 定評あるDavid Crystal教授による画期的最新百科事典。
- 全世界の英語の歴史・構造・用法などを中心に、英語の全領域に亘って広範な知識を提供。
- 専門技術用語や複雑な概念の解説は、特に簡潔・平明な記述になるよう配慮しています。
- 写真・イラスト・カラー囲み記事・図表・地図を多数使用し、ビジュアルで多彩な紙面を心がけています。
- 本文に付随する写真、広告記事、諷刺漫画、引用語句、切抜き記事、詩などは、見ても読んでも楽しく、新鮮でユーモラスな内容のものを掲載しています。

【収録内容】 英語史／文法・発音・綴り／口語体と文語体／地域的・社会的多様性—アクセントと方言／新語・隠語・俗語・常套句／専門用語／英語の語彙の膨大な範囲と創造性／文学用語／ユーモア英語／英語学習／世界語としての英語／英語の未来



CAMBRIDGE
UNIVERSITY PRESS

1995年6月 通巻第337号 洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社